

令和５年度第１回京都市国民健康保険事業の運営に関する協議会質疑応答

	【協議事項（「令和４年度京都市国民健康保険事業決算見込について」）に係る質疑応答】 質疑なし 【協議事項（「令和５年度京都市国民健康保険事業運営計画（案）について」）に係る質疑応答】
居 内 会 長	それでは、ただ今の説明について、御質問や御意見があれば、挙手をお願いしたい。
谷 口 委 員	２点申し上げる。 まず、一般会計繰入金の確保について意見を申し上げる。副市長挨拶の中で、京都市全体の財政状況について、油断はできないという話があり、運営計画では、国保事業運営のための財源として、一般会計からの繰入金の確保や国・府補助金の確保が必要という話であった。補助金の確保は進んでやっていただきたいと思うけれども、一般会計からの繰入金については、京都市民の税金でもあるため、可能ならば、他の部分から財源を確保することはできないだろうか。 次に、特定健診の検査項目について意見を申し上げる。高血圧で未治療の方が、さらに心不全を併発していることがあり、高齢者の心不全患者が増えてきている。特定健診の項目の中に、心不全を判断する指標としてNT-proBNPの項目を追加していただけないか。国への要望としてあげていただきたい。
田 中 課 長	一般会計繰入金の財政支援分について、財源を一般財源としており、市として税金を投入しているという状況は認識している。しかしながら、いわゆる国民健康保険は現状、構造上の課題として、低所得者・高齢者の加入割合が高いため、医療費が高くなり、被保険者が負担する保険料も高くなる。被用者保険の方と比較すると、同じぐらいの所得であっても、国保の被保険者の負担の方が高い状況となっている。一般会計繰入金が無くなると、国保被保険者の負担が被用者保険に比べて大きくなり、国保被保険者の生活を圧迫するという懸念がある。そのような状況の中、国保でも被用者保険でも保険料の負担が同程度になるべきという思いから、国に対して医療保険制度の一本化を要望している。また、本市の国保財政においても、一般会計繰入金については適正に精査し、京都市の一般会計と国保財政の双方が持続可能となるように取り組んでいきたい。 特定健診における心不全の項目について、現状では対応しきれていない部分があるが、本市の特定健診の検査項目は、他の市町村と比較すると充実した内容となっている。検査項目を充実させていくことは理想的ではあるが、費用対効果も含めて検討していきたい。

居 内 会 長	健康な方が引き続き健康でいられるような健康づくりの取組が保健事業でも重要だと思う。京都市においても、健康長寿のまち・京都の取組として、様々な取組をされていると思うが、それらの取組の評価や概略についてお聞きしたい。
田 中 課 長	国保や健康長寿の取組として、様々な取組を行っているが、評価として実績を出すことが非常に難しい部分がある。現在、京都大学と連携をしながら、医療と介護の双方の観点からデータ分析を進めており、評価として報告できるものを協議している。 特に、高齢化が進むにつれて、21ページに記載のあるフレイル対策支援事業のような、健康長寿サロンや予防推進センター等の高齢者が集う場所に医療専門職等を派遣することで、充実した介護予防に繋げる取組等を進めている状況であり、詳細に評価を報告できる状況ではないのが現状である。
居 内 会 長	評価が難しい、という課題があったが、例えば21ページに記載されている「プラスせんぼ」等、具体的な取組もいくつか実施されている中で、いくつかの指標を設けて、初年度からの取組状況や市民の行動がどのようになったか、ある程度分かるような取組方法を考えられないか。これまでとの状況を比較することができるような指標を設けて継続的に把握できれば、我々も分かりやすいと思う。また、専門的な観点から振り返りをする等の取組ができないだろうか。
田 中 課 長	「プラスせんぼ」等の健康長寿の取組は健康長寿企画課が主に実施しており、そちらでも健康づくりに関する計画等を策定し、部会等で事業の進捗や成果について話し合いがなされている。適宜、状況については報告していきたい。
田 村 委 員	ジェネリック医薬品のシェアを80%以上と国が目標値を掲げているが、ジェネリック医薬品の流通が不足していることに関してはどのように考えているか。
田 中 課 長	ジェネリック医薬品の流通不足に対しては、当課が何かできる立場にないが、ジェネリック医薬品差額通知を行うにあたり、コールセンターを設置しているため、市民からの意見等も踏まえながら、差額通知事業の運営のあり方について検討していきたい。
中 林 委 員	21ページに掲載されている「健康ポイント事業 いきいきシニアポイント」というのは、どのように周知しているものか。
田 中 課 長	「いきいきシニアポイント」の冊子を作成しており、地域包括支援センター等の高齢者が利用する施設で配布し、普及を進めている。
中 林 委 員	地域包括支援センター等は、あまり利用者が施設の窓口を利用されるという状況が少ないように思う。高齢者でも薬局にはよく行かれると思うため、普及場所として薬局等も活用したらよいのではないか。

田 中 課 長	意見として頂戴する。
居 内 会 長	以上の意見への答弁も含めて、令和5年度京都市国民健康保険事業の運営計画案について了承をすることで、よろしいか。
	(委員からの異議なし)
居 内 会 長	では、令和5年度京都市国民健康保険事業の運営計画案について了承することとする。
	【協議事項（「国民健康保険の産前産後保険料の免除について」）に係る質疑応答】
	質疑なし
	【協議事項（「保険料水準の統一に向けた検討について」）に係る質疑応答】
	質疑なし